指導案⑦

**地震防災　学習指導案**

年　月　日（　）第　校時

小学校高学年

児童数　　　　　名

場所　　　　　教室

指導者

**１　題材名**　「地震に負けない建物をつくろう」

**２　題材について**

　（１）児童の実態

（小学校の立地、児童の人数、特徴などを書く。）

　（２）題材設定の理由

　　　地震防災の学習は以下の内容を基本とする。

* ハザードの理解（なぜ地震が発生するのか）
* 地震への備え（ハードとソフト）
* 地震発生時の対応（直後の身を守る方法から避難、救出・救助、支援、避難所生活など）

地震発生時にどう身を守るかの学習は地震防災の基本だが、実際の地震災害では、倒壊した建物が人々の命を奪う。建物が耐震化されない限り、犠牲者を減らすことは不可能である。こどもたちが将来、耐震化された家を選ぶ可能性を高めることが社会全体の防災力の向上へとつながっていく。小学生のうちから耐震の重要性を楽しく学び理解しておくことは重要である。

**３　評価規準**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 観点 | 集団活動や生活への関心・意欲・態度 | 集団の一員としての思考・判断・実践 | 集団活動や生活についての知識・理解 |
| 評価規準 | 　自己の生活の充実と向上に関わる問題に関心を持ち、自主的に日常の生活や学習に取り組もうとしている。 | 　楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、日常の生活や学習の課題について話し合い、自分に合ったよりよい解決方法などについて考え、判断し、実践している。 | 　楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの大切さ、そのための健全な生活や自主的な学習の仕方などについて理解している。 |

**４　事前の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
|  |  |  |

**５　本時のねらい**

　地震防災では建物の耐震化が重要であることを理解する。本時では牛乳パックやティッシュペーパーの箱、お菓子の箱など身近な材料を使って耐震化の方法を考え、発表し、実際の建築で使われている技法と比較することで、楽しく耐震を学ぶ。

**６　本時の展開**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指すこどもの姿と評価方法 |
| 導入 | 地震被害の写真を見て思ったことを発表する。* 建物が壊れている。
* 家具が倒れている。
* ガラスが割れている。

など。 | 　写真から災害の様子をイメージさせる。　怖がらせるのではなく、防災を学べば安全であることを強調する。 | 　写真の中の被害と自分の日常の生活を結びつけて考えようとしているか。 |
| 展開 | 　牛乳パックを輪切りにし、二つをホッチキスやセロテープでつないで、２階建ての家の骨組みを作り、揺らしてみる。　家を揺らして揺れ具合を観察する。　残った材料で揺れないように工夫を凝らす。 | 牛乳パック、セロテープ、ホッチキスを使って2階建ての家を作る方法を説明し、実際に作成させる。出来あがった家を揺らしてその揺れ具合を観察させる。「残った材料で揺れないようにしよう」と話しかけ、自由に「耐震化」させる。 | 　耐震方法を考えて、いろんなアイデア出しているか。 |
| 　自分の工夫を他の人に説明する。 | 工夫した点を発表させる。様々な工夫について的確にコメントする。 | 　ユニークで実用的な工夫を凝らしているか。　ほかの人にわかるように説明できているか。 |
| 耐震化のポイントを理解する。 | 　こどもたちの工夫を「筋交い」「耐震壁」「通し柱」「火打ち」「免振」などに分類していく。 |  |
| 　実際の耐震化の技法を学ぶ。 | 　建築中の建物の写真を見せ、実際の耐震化の技法を学ばせる。 |  |
| まとめ | 　２０年後に住んでいる場所、仕事、家族構成などを具体的に想像する。 | 未来の自分をイメージさせる。 |  |
| その時どんな家に住んでいるか、その特徴を挙げる。 | 将来の家の特徴を挙げさせ、耐震化されていることを確認する。 | 　将来の自分の家に耐震を取り入れようという姿勢を持っている。 |

**７　事後の指導**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 児童の活動 | 指導上の留意点 | 目指す児童の姿と評価方法 |
| 家族と耐震化について話し合う。 | 作成した模型を持ち帰らせ、家族と話し合わせる。 | 自分の将来に「防災」「耐震」を取り入れているか |

以上